

「川崎市の人口動態—令和 7（2025）年—」を公表します

「住民基本台帳法」及び「戸籍法」の届出による日本人及び外国人住民の動態から、令和 7（2025）年（暦年）の人口増減について概要をまとめた「川崎市の人口動態—令和 7（2025）年—」を公表します。



川崎市 HP へ

川崎市ホームページ：<https://www.city.kawasaki.jp/170/page/0000184836.html>

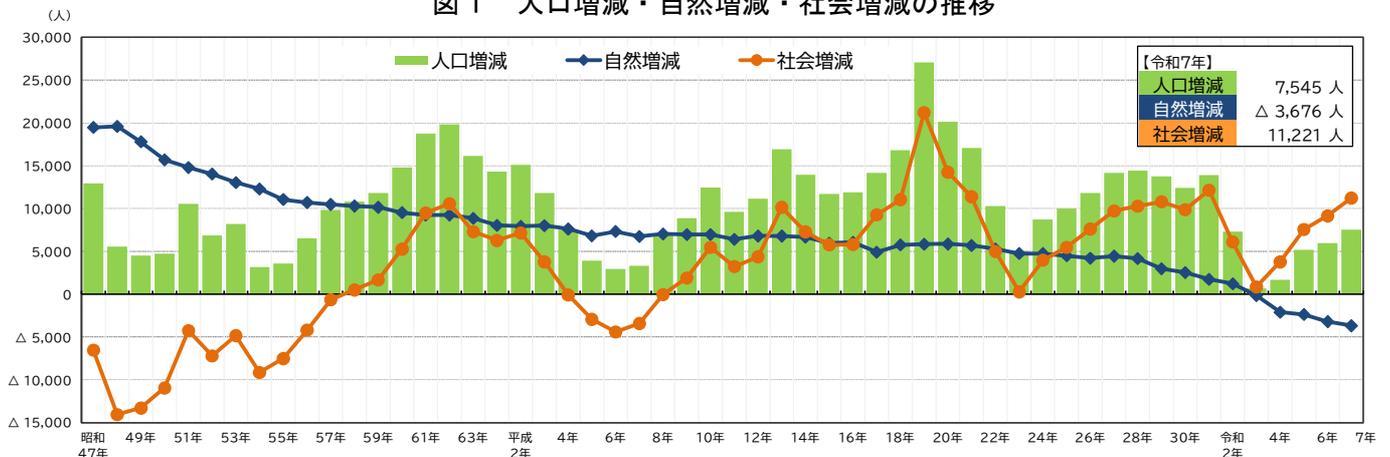
- ・人口増減 7, 545 人の増加（対前年 1, 594 人増）
- ・自然増減は 3, 676 人の減少【5 年連続】（対前年 478 人減／出生数 478 人減・死亡数増減 0 人）
- ・社会増減は 11, 221 人の増加【29 年連続】（対前年 2, 072 人増／転入数 1, 840 人増・転出数 232 人減）
- ・区別の人口増減は麻生区で減少、他 6 区で増加／麻生区では 5 年連続減少
- ・外国人住民の人口増減は 4 年連続で増加

1 川崎市の人口動態（P4）

令和 7（2025）年 1 年間の本市の人口増減（自然増減数＋社会増減数）は 7, 545 人増（対前年 1, 594 人増）となりました。このうち自然増減（出生数－死亡数）は 3, 676 人減（対前年 478 人減）で、社会増減（転入数－転出数）は 11, 221 人増（対前年 2, 072 人増）となりました。男女別の人口増減数を見ると、男性が 3, 819 人増（同 787 人増）で、女性が 3, 726 人増（同 807 人増）となりました。（図 1）

	総 数		男		女	
	対前年増減数	対前年増減数	対前年増減数	対前年増減数		
人口増減	7 545 人増 (1 594)	3 819 人増 (787)	3 726 人増 (807)			
自然増減	3 676 人減 (△ 478)	2 191 人減 (△ 201)	1 485 人減 (△ 277)			
出生	10 395 人 (△ 478)	5 325 人 (△ 214)	5 070 人 (△ 264)			
死亡	14 071 人 (0)	7 516 人 (△ 13)	6 555 人 (13)			
社会増減	11 221 人増 (2 072)	6 010 人増 (988)	5 211 人増 (1 084)			
転入	108 445 人 (1 840)	58 153 人 (1 140)	50 292 人 (700)			
転出	97 224 人 (△ 232)	52 143 人 (152)	45 081 人 (△ 384)			

図 1 人口増減・自然増減・社会増減の推移

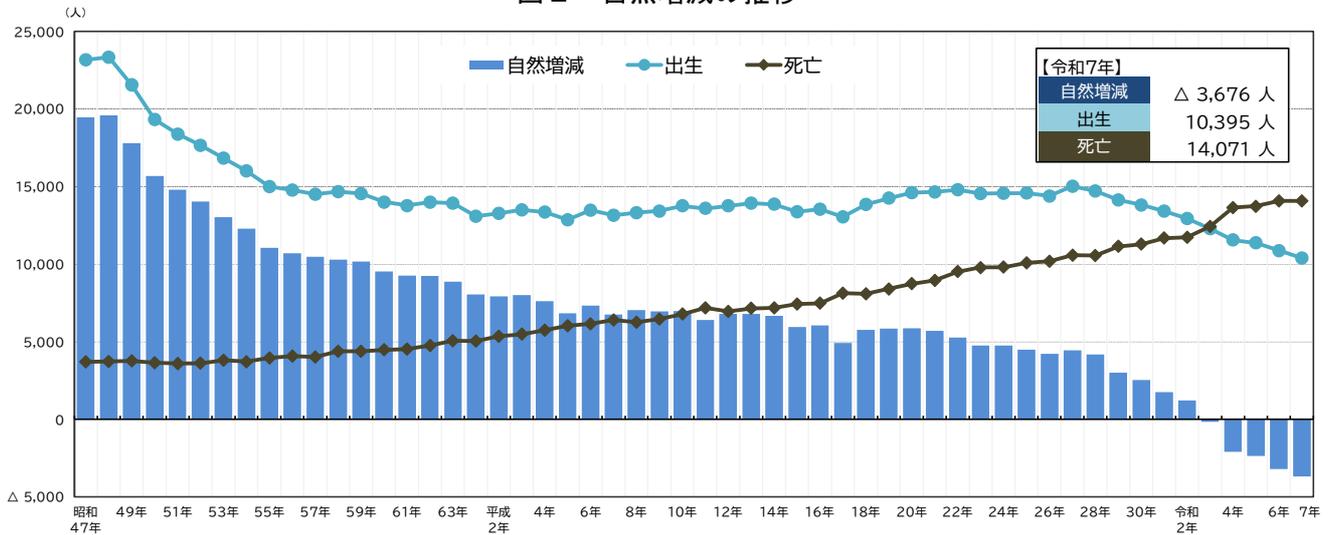


問合せ先
川崎市総務企画局都市政策部統計情報課 片岡
電話 044-200-2066

2 自然動態 (P5)

自然動態は、出生が10,395人(対前年478人減)、死亡が14,071人(同増減なし)で、出生から死亡を差し引いた自然増減は3,676人減(同478人減)となりました。近年の出生数は、平成27(2015)年の15,015人をピークに減少が続き、令和7(2025)年には、10,395人まで低下しました。死亡数は、高齢化の進行に伴い増加傾向にあり、平成25(2013)年以降13年連続で1万人を超え、令和7(2025)年は、14,071人となりました。(図2)

図2 自然増減の推移

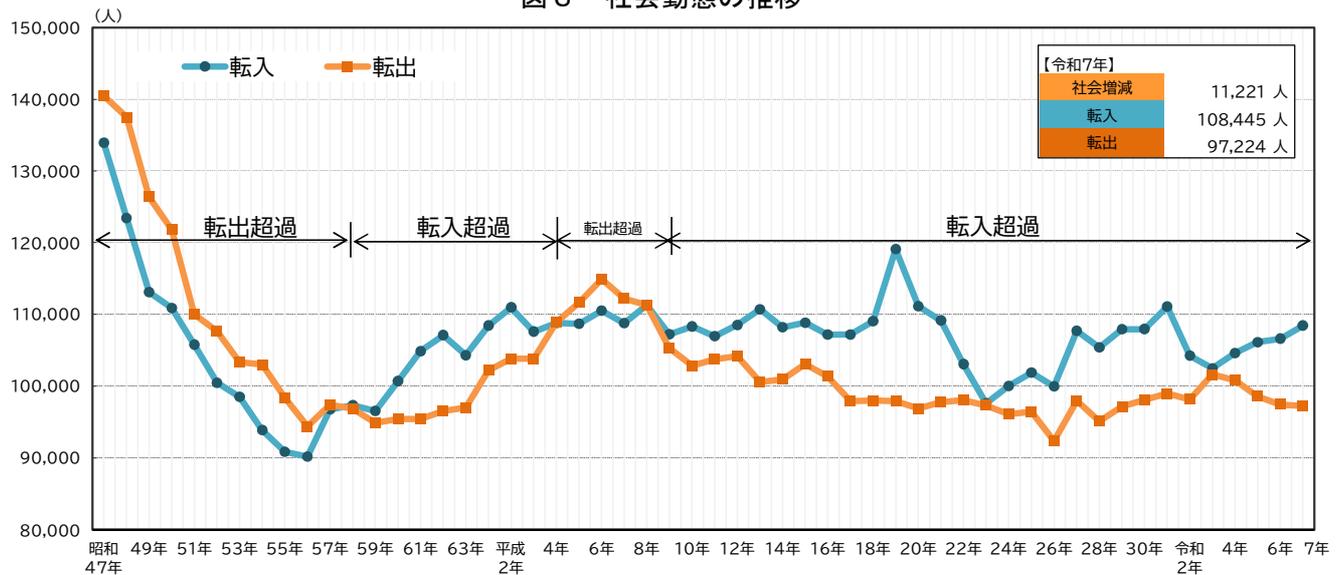


3 社会動態 (P6~9)

(1) 川崎市の社会動態

社会動態は、転入が108,445人(対前年1,840人増)、転出が97,224人(同232人減)で、転入から転出を差し引いた社会増減は11,221人増(同2,072人増)となりました。なお、社会増減は平成9(1997)年以降、29年連続で社会増(転入超過)となっています。(図3)

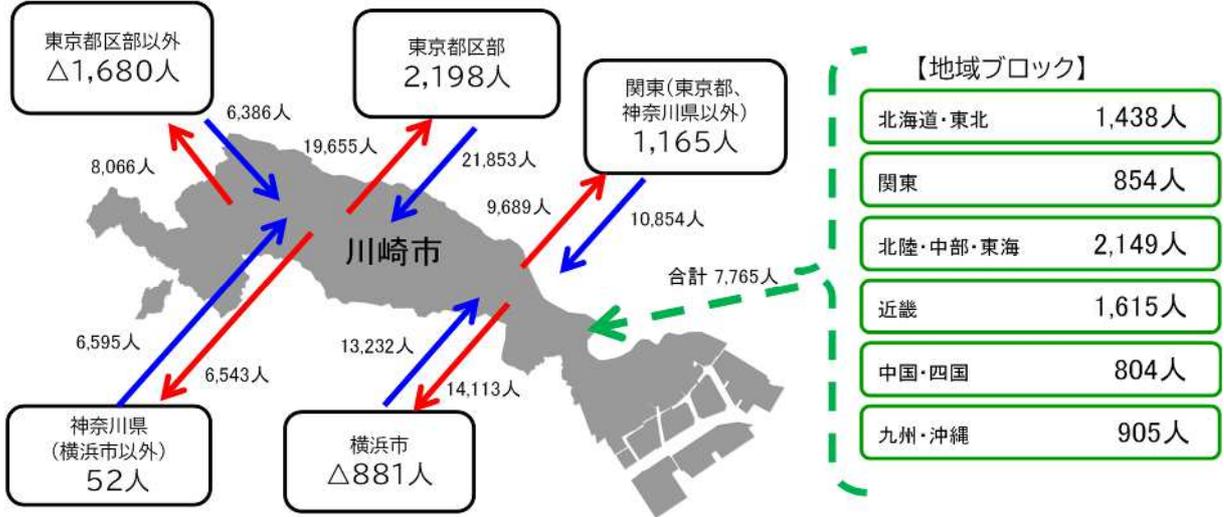
図3 社会動態の推移



(2) 転入前・転出後の住所地別移動人口

関東のうち東京都及び神奈川県についてみると、東京都区部との関係では2,198人の転入超過、東京都区部以外との関係では1,680人の転出超過となり、その差引きとして、東京都に対しては、518人の転入超過となりました。また、横浜市との関係では881人の転出超過、神奈川県（横浜市以外）との関係では52人の転入超過となり、その結果として、神奈川県に対しては、829人の転出超過となりました。そのため、東京都、神奈川県以外の関東に対しては、1,165人の転入超過となりました。（図4）

図4 地域ブロック及び東京都、神奈川県との移動人口（令和7（2025）年）

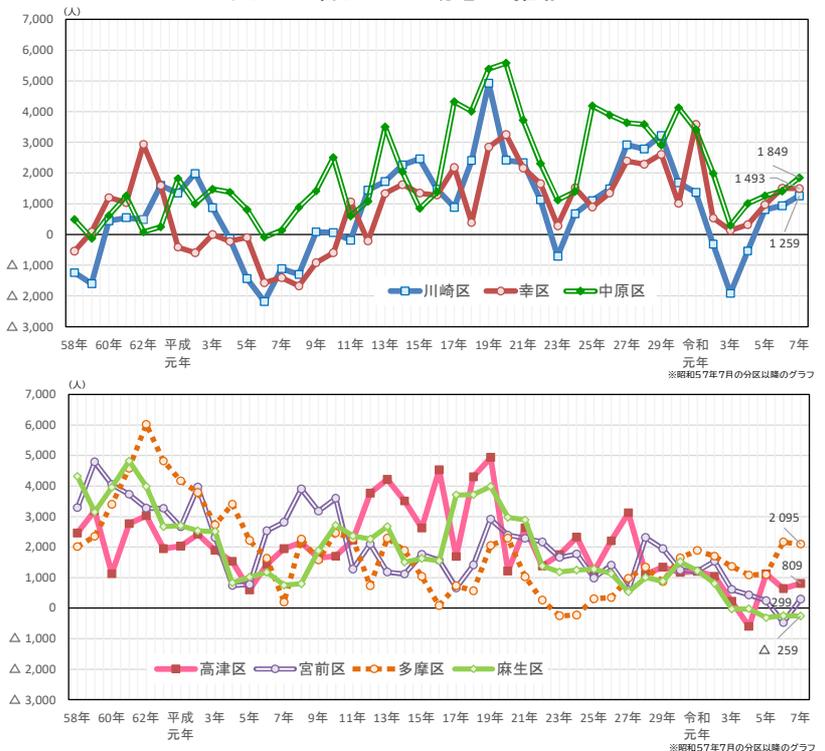


4 区別の人口動態（P11～18）

区別の人口動態をみると、人口増減が最も多いのは、多摩区の2,095人増（人口増減率0.92%）で、次いで中原区の1,849人増（同0.69%）、幸区の1,493人増（同0.86%）、川崎区の1,259人増（同0.54%）、高津区の809人増（同0.34%）、宮前区の299人増（同0.13%）の順となりました。

一方、麻生区は259人減（同△0.14%）、となりました。麻生区は5年連続の人口減となりました（図5）。

図5 各区人口動態の推移



5 外国人住民の人口動態（P10）

外国人住民の人口増減は5,759人増、自然増減は256人増、社会増減は5,503人増となり、人口増減及び社会増減は、4年連続で増加となりました。また、区別の人口増減は、全ての区で増加となっています。